

ホップ・ステップ



春期講座頑張ってます！



卒業生の高校スタートダッシュです

父母の方、卒業生の皆さん差し入れ有難うございます！



28期生で今年、帯畜の3年生の福士太郎君と29期生で高専5年生の大陸君が二人で。大陸君の大学進学への選択についての相談でした！

28期生で高専の電子工学科を卒業した小澤涼香さん。卒業式のあと袴姿で報告に来てくれました。就職先は茨城県の日立だそうです。

25期生の成瀬京さんと妹の29生の和さんが来てくれました。看護大を卒業し助産師の資格取得のため東京へ。和さんは歯科衛生士の学校で今年2年生です！

18期生で市立病院の看護師の佐藤奈々さんがりりなちゃんを連れて受験生のためにキットカットを届けに来てくれました。毎年です

★**新年度、新学期が始まります！**★
24年度の入試も終わり各学年それぞれが進学、進級と新たなスタートをきります。
大変な時代を生きていくためには、今出来ることに真剣に一生懸命取り組むという姿勢がとても大事です。目標を持ってそれに積極的に向かう日々の努力の積み重ねが、学力だけではなく自分を成長させることにつながります。
誰のために勉強するのか、何のために勉強するのか、すべて自分の将来のためにです。
学力以上に重要視されている非認知能力の積極性やコミュニケーション能力、発想力を付けることが求められています。
塾で見ていると、ちゃんと挨拶ができない人、元気がない人、積極的な姿勢が感じられない人が見受けられます。
昨年、今年の入試を見ると明らかに難易度が高く、できる生徒とそれ以外とを区別するというような悪意を感じます。
以下は道コン事務局の入試の【総評】です

受験生の皆さんお疲れさまでした。今年の入試は、高難度だった昨年よりさらに難化し、新しい傾向の出題も見られました。緊張の中、実力を十分に発揮できなかったという感想をお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、まずは全力を尽くした皆さんに拍手を送りたいと思います。
高校入試は、中学生の皆さんにとって人生の節目であることは間違いありませんが、最も重要なのは、この経験を今後の長い人生の中でどのように生かしていくかということです。
今回の経験が皆さんを強くし、今後の人生の糧になることを祈っています。また、保護者の方々も、受験したお子さん同様に（もしくはそれ以上に）不安を抱きながら過ごされていたことと思います。本当にお疲れさまでした。
今年受験生となる生徒も、そうじゃない生徒も意識して日々真剣に取り組みましょう。
ステップゼミナールでは3月から新学年の勉強がスタートしています！

不登校、発達障害、高校進学を断念 学び直し始めた「15の春」 釧路
男子生徒が書き込んだ漢字のプリントや勉強道具。精神的な不安が続いてから、机に向かう時間が減った
釧路管内に住む中学3年の男子生徒（15）は、たったひとりの「15の春」を迎えようとしている。級友との関係を機に不登校になった後、発達障害の診断を受けて約2年。この春の進学を断念し、2月から学び直しを始めた。不登校の児童生徒が増える中、進路の多様化は一層進むとみられ、専門家は「成長を見守る支援者をつくることが重要だ」と指摘する。
2月中旬、釧路市の自主夜間中学「くるかい」の会場の隣で静かに数学の問題を解き終えた男子生徒。「疲れた」と照れくさそうにほおを緩めた。
50代の母親は教科書や参考書などを寄付し、「行き場がなく困っている親子はいるはず。支え合えるようになりたい」。少しずつ、前を向こうとしている。
2年前の春。登校時に腹痛を訴え、同じ学校の生徒を見ると体が動かなくなった。「行きたくない」。スマホには生徒を問い詰める友人からのメッセージが並んでいた。心配する母親にも多くを語らなかつた。
体調不良と自室にこもる日が続き、「どんどん悪化する子どもの心と体を守るのに精いっぱいだった」（母親）。緊急で受診した十勝管内の医療機関で初めて、自閉症スペクトラム障害と診断された。
車で約1時間の釧路市にあるフリースクールの利用は経済的に困難だった。同世代と接したり校舎に入ったたりすることが難しく、「どこにも行くところがない」と進学を諦めた。専門家を交え、卒業後に福祉的な支援を受けられないかが話し合われている。
釧路、根室の両教育局によると、釧路管内の22年度の不登校の小中学生は469人、根室管内は160人。18年度比で釧路管内は1.5倍、根室管内は1.3倍に増えた。いずれも中学生は7割を占める。
思春期の心理に詳しい精神科医で、北星余市高など道内の実践について研究する小野善郎氏「元和歌山県精神保健福祉センター所長」は「思春期はそもそも対人関係に敏感になる。中学で進路決定を迫られる社会であることが問題で、親子が慌てずに次の準備ができる環境をつくるのが大事だ」と指摘する。
不登校の背景や学習ニーズの多様化も進むとみられ、「成長期を長くとらえ、その子なりの成長を継続的に見守る存在や関係性が地域で重

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月
	天皇誕生日	休塾							休塾							休塾						★中学校入学式	★高校入学式	休塾	休塾	★学力コンクール(3生)	◆春期講座最終日	◆春期講座	★学力コンクール(1・2生)
	休塾	休塾																				◆通常授業開始							
4月の予定																													

大きな声であいさつを！
過保護・過干渉は子供をダメに！

要になる」と話す。
北海道新聞24年3月1日
今は高校さえ卒業すれば何とかかなるような時代ではまったくありません。
皆さんが思っているかもしれませんが、今は市内の公立高校だけが高校の選択肢ではありません。
釧路高専や標茶高校は評価の高い学校で、社会が求めている即戦力の能力を身に付けてくれる学校です。
さらには、釧路にいても全国に1万人以上の生徒が在籍するネットで授業の受けられるN高等学校やクラウド記念国際高等学校、池上学院高等学校など自分の個性にあった高校を選択することができるのです。

「避難路を若い人に譲る高齢者夫婦」「JAL への文句は一切ない」

516 便に乗っていた東大生が語る乗客とクルーへの感謝

「当事者じゃない方の声大きい」「今後も JAL 便に乗りたい」

〈羽田 JAL 機衝突事故から 1 週間〉

「避難路を若い人に譲る高齢者夫婦」「JAL への文句は一切ない」516 便に乗っていた東大生が語る乗客とクルーへの感謝「当事者じゃない方の声大きい」「今後も JAL 便に乗りたい」〈羽田 JAL 機衝突事故から 1 週間〉

1 月 2 日午後 18 時前、新千歳空港から羽田空港に着陸した日本航空 (JAL) 516 便が海上保安庁の航空機と衝突した事故から 1 週間が経った。海上保安庁の機体に乗っていた 6 人のうち 5 人の死亡が確認されたが、JAL 便の乗客、乗員を合わせた 379 人は軽傷者こそ出たものの全員無事脱出。集英社オンラインは、当日に同機に搭乗していた乗客の新証言を得た。

「人生で初めて本気で『死ぬかもしれない』と思うと涙がこぼれました」事故を受けて 2 日から閉鎖されていた羽田空港の C 滑走路も、7 日に 516 便の撤去作業が終了し、格納庫にて警視庁による検査作業が開始した。そして 8 日には C 滑走路の運用が再開。JAL によれば 516 便が全損したことによる損害は約 150 億円に上る見込みだという。

そんななかで、乗客 379 人は脱出したものの、貨物室に預けられていたペット 2 匹の救出は叶わなかったことで、タレントや女優などの著名人らによるペット論争にも発展した。

1 月 4 日、集英社オンラインのもとに「先日の 516 便に搭乗していました東京大学に通う吉沢明子 (仮名) という者です (略)。私が見た乗客や乗務員の方々の素晴らしい姿をぜひとも知っていただきたいと思い連絡しました」といった内容のメールが届いた。

すぐさま取材依頼をすると「今は札幌の実家に帰省している」と吉沢さん。2 日に命の危機を感じるほどの恐怖を体験したにもかかわらず、帰省では再び JAL 機を利用する予定だったが、欠航したため他社の飛行機に乗ったという。JAL 機への不信感はないのかと問うと

「もともと両親が好んで JAL に乗っていたのと、今回の件で素晴らしい対応を身をもって知ったので今後も乗りたいと思います」(吉沢さん、以下同)



炎上する機体と煙が充満する機内 (乗客提供)

吉沢さんは年末年始を札幌の実家で過ごし、2 日に都内の自宅に帰るために JAL516 便を利用した。JAL516 便は 15 時 50 分発の予定だったが 30 分ほど遅延したという。

「東京—札幌間はわりと遅れるイメージでしたので特に疑問は感じませんでした。普通席の前から 51 番目で右翼エンジンの少し後ろでした。着陸の瞬間にエンジンが火を吹いたように見え、機内が明るく照らされ驚きました。でもそのときはあれほどの大事になるとは思わなかったんです」

だが、やや急停止するかのようにガガガガーっという振動と共に機体が停まると、事の重大さにじわじわと気づき始めたという。

「『R3 開けません! L3 ダメです!』そんな添乗員の方の大きな声が聞こえ、閉じ込められてしまうのではないかと急に不安になり、子どもの悲痛な泣き声や『出して下さい!』といった叫び声も相まって精神が徐々に削られ、今にも皆の理性の糸が切れて、我先に外に出ようと暴走する人がでないか不安が強まりました」

しだいに窓の外で燃える炎の熱さを感じられ、煙が充満する機内。

命の危機を感じた。

「恐怖で足がガクガクと震え、人生で初めて本気で『死ぬかもしれない』と思うと涙がこぼれました。でも隣に座っていた若い男性と女性が『大丈夫!』と声をかけてきて、手を握ってくれました。しかも男性はマスクをくださいました。周囲でも、落ち着くよう論し励ます声も多く、こんな場面でも立派な方がたくさんいるのだと感動しました」

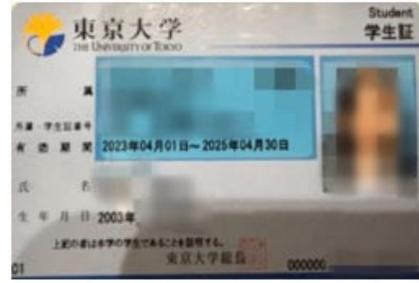
特に感動したのは、あの混乱の最中においても譲り合いの精神を持つ人々が多かったということだという。

「私の猫、預けてたんです…」

「後方の席だったので、席を立てて通路を走るまで 5 分以上かかったように思います。私たちの席の番になったとき、隣に座っていた若い男性が手を引いて列の前に

入れてくださり、感謝でいっぱいです。他にも高齢のご夫婦が若い人たちに避難路を譲っていたのも印象的でした。避難口までの道のりは本当に長く感じましたが、乗務員の方が足元を照らし続けてくださり、冷静に指示を出している姿に励まされました。外に出た後も機体が燃え続けているにもかかわらずシューターの下に残り、手を貸してくださる方がいて本当にすごいと思いました。今回の事故を通して私は人の温かさや立派さというものを感じたのです」

多くの搭乗者が機内に荷物を置いてきてしまった中で、吉沢さんはジャケットを着たまま搭乗しており、財布とスマホ、そして冬休みの宿題となる英語筆記の論文のテーマにした書籍 (英語版の文庫) は持って脱出した。



東大生の吉沢さん (仮名)

「でも、冬休み中に論文を書き綴っていたパソコンと、ちまちま買い集めた高めのコスメが入ったバッグを足元に置いてきてしまいました。一瞬、パソコンだけでも持って出ようと思ったんですが、荷物を持たないように言われていたので断念しました」

今回、話題になったペットについての論争についてもどう思うかを聞いた。「ペットは物ではもちろんないですが、人命が優先になってしまうのは仕方がないことだとは思いますが。今回のことですごく感じたのは当事者じゃない方の声大きいな、ということです。機内を脱出後に乗ったシャトルバス内で猫を失ってしまった女性が近くにいらっしゃいましたが、静かに泣いてました。近くの親子に『大丈夫ですか?』と聞かれても『私の猫、預けてたんです…』とポツリと言うだけで、JAL への文句は一切ありませんでした」

SNS などを中心に広がる批判コメントなどについてもこう持論を述べた。「私は無責任な発言はしたくないので基本的に SNS では発信しません。世の中には自分よりも見識のある専門家や頭脳の優れた人はたくさんいるわけで、自分の浅はかな知識で発信するのは危ないと思っているからです」

今回の事故で強く感じたことは「自分は特別でもなんでもない」ということだという。

「これまでの人生においても、東大に入る時も浪人してるし特別だとか万能感なんかもありませんでしたが、そもそも自分がまさかこのような事故に見舞われるとは思ってなかった。それにもっと冷静な自分を保てると思っていました。でも、自分でも意外なほどに心は乱れ涙が溢れ足が震え、新たな自分を知った。また、譲り合う人たちの姿を見て自分の未熟さも知りました」

機内で燃えてしまったパソコンの中の論文はどうなったのか。「論文提出期限は 1 月 4 日だったんですが、10 日に延ばしていただきました。論文は英字で 3000 語書く必要があり、機内でも読み返しながらか途中まで書いていたのですが、クラウド上に残ったデータは機内で書いた部分が消えていたんです。期限延期してもらえたので助かりました」

JAL からは事故翌日の 3 日に「1 人につき見舞金 10 万円と預け荷物の弁済金 10 万円の計 20 万円を支払うほか、なくなった物も具体的に申告してもらい、額を算出する」と連絡があったという。

吉沢さんは「まだ自分の学びたい学問は決まってないですけど、今回の経験も活かして人に役に立つ仕事に繋がるような、そんな学びをしていきたい」と毅然と前を向いていた。取材・文/河合桃子 集英社オンライン編集部ニュース班

2024/01/09 集英社オンライン

2024 年は元旦の能登半島沖地震、続く 2 日には羽田空港での日航機事故と衝撃的な出来事で 24 年がスタートしました。

私たちはそんな命の危険にさらされるような事が、今すぐ自分たちの身に起こるなんてことは思って日常を送っていません。

平成 7 年の阪神・淡路大震災では 6000 人以上、23 年の東日本大震災では 15000 人以上、28 年の熊本地震では 200 人以上、そして今回の能登半島地震では 240 人あまりの尊い命が失われています。

日本列島は環太平洋火山帯 (環太平洋造山帯) の中にあり、道東沖超巨大地震が必ず来る言われています。いつ、地震だけではなくいろんな災害や事故に遭うかわかりません。

日頃からそういうことが起きたら我が身を守るためにどう対応すればいいのか、どこに避難すればいいのか、しっかり考えておきましょう。